

【感想】 私は京土会学生・若手会員研修助成基金のお力添えにより、2018年10月15日～19日にわたってマレーシアのクアラルンプールで開催された、第39回アジアリモートセンシング会議（ACRS2018）に参加致しました。当学会では、アジア各国から訪れた研究者や学生の研究発表を聴講するだけでなく、自身も質疑応答を含む15分程度の研究発表プレゼンテーションを英語により行いました。

私は“An Evaluation of the Effect of the Construction of Walking Spaces on their Neighborhood Environment Using Walkability Index: with a Focus on the Reuse of Discontinued Railroads”という題目で研究発表を行いました。発表としては、現時点で歩行空間整備に寄与する有効な評価指標が存在しないことを問題点に上げた上で、Walkability Index という居住環境における歩行活動量の促進を表す定量指標を用いて、ニューヨーク市マンハッタンに建築されたハイライン（High Line）という歩行空間の整備影響を分析した結果及び考察を説明しました。当学会はリモートセンシング技術の研究を行う研究者が多く、都市計画に携わる方々は比較的少なかったため、歩行空間の評価というトピックは馴染みがないことが予見されたことから、より分かりやすく研究成果が伝わるよう発表スライドの構成や明瞭性などの向上に努めました。

今回 ACRS2018 に参加したことで、英語で行うプレゼンテーションの興味深さと、ディスカッションの際に自分の考えを正確に他言語で伝える難しさを再確認しました。また、指摘された内容を踏まえて、今後自身の研究を向上させる必要性も痛感しました。今回 ACRS2018 に参加して得られた経験は国内の学会では到底得られないものであり、大変有意義な時間を過ごすことができたと感じます。

最後になりましたが、大変貴重な援助をいただいたことに心より感謝を申し上げますとともに、今後とも一層勉学に努めることをここに約束し報告と致します。